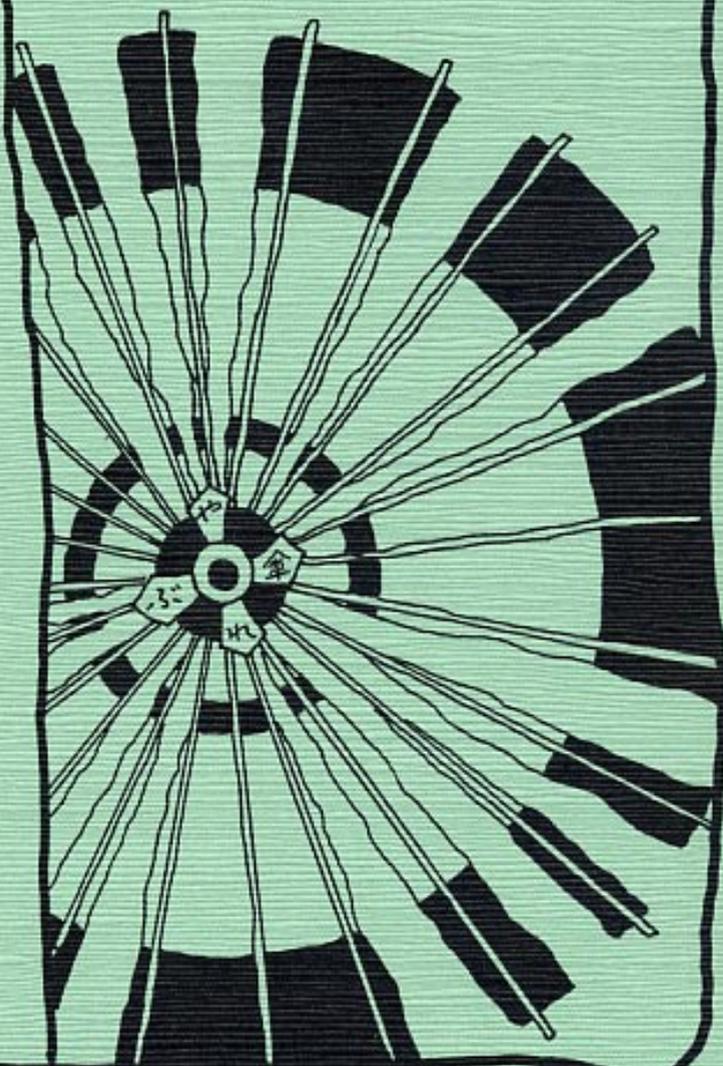


# やぶれ傘



四十六号

二〇〇九年二月

木槌もてほぐす干物や雪催	根橋宏次
本殿に灯の入り除夜のお焚き上げ	廣瀬雅男
舌の上のラムネ溶けゆく小春かな	きくちきみえ
日溜りは紅葉散りゐる木の下に	天野美登里
凧や定期整備の花時計	瀬島酒望
米原を過ぎて冬野となりにけり	丑久保 勲
うつすらと苔むす岩に霜宿る	大島英昭
鐘つけば寒林ひしと応じけり	白石正躬
去年今年ともに年取る床柱	安藤久美子
舳ひ杭黒く錆たり冬の霧	藤井美晴
手にめでてワイングラスへ龍の玉	國保八江
白菜の畝に日差しの有り余る	渡邊孝彦
特大のくさめありけり隣より	松村光典
腕組みを解きて始める松手入れ	松本善一
山里の風は谷より干大根	松本正生

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

夕焚火暗算ごつこする親子	村上祥三
回想のだうだう巡り糸編む	秋葉貞子
小春日や自由が丘のカフェテラス	有賀昌子
新藁を匂ひとともに畑に敷く	久世孝雄
声尖がる母には母の寒さかな	忽那みさ子
一遍の像に小春の日の光り	齋藤朋子
秋高しロープウエーはまだ上へ	佐藤静子
堂門の錆びし乳鋌薄紅葉	篠崎善久
針箱の指貫さがす一葉忌	鈴木昌子
麻酔から目醒めし夫よ冬薔薇	武石京子
冬空の透析室の血のにほひ	近間雄道
田の霜を崩して雀歩みけり	都丸スミ代
手に馴染む赤楽茶碗秋深む	貫井照子
冬紅葉塔のへつりの橋揺れて	橋本美代
汁粉屋に招き猫ゐる冬至かな	平岡かつを

四ツ手網

大崎紀夫

かなかなや石置き屋根の朝湿り  
四ツ手網しづみて秋の水のいろ  
あかときの雲は谷間に蕎麦の花  
磯菊に夕風とまた夕日かな  
橋下に魚影ありけり初紅葉

菊人形悪役のかく華やかに  
月代や橋を風ゆく小名木川  
素十忌の日のかげ燈を離れけり  
蛤となる雀なり安房なれば  
夜の川の水脈のひかりや零余子飯  
豆を引く影は丹波の篠山に  
秋の夜の暗渠に落つる水の音

霜宿る

大島英昭

剥きたての柿干してある蕎麦処  
電話鳴る音小春日の田を越えて  
野球部のこゑとほくなる冬田道  
庭先に枯れ鶏頭と三輪車  
冬蝶の小さきが落ち葉色をして  
暖房の中ガンダーラ仏い在ます  
無住寺の前に自転車日短  
うつすらと苔むす岩に霜宿る  
菰巻きのほぐれかけたる麻の紐  
根深葱掘られし跡も陽の中に

寒 林

白石正躬

手をふるる木肌は冬の気配かな  
からつぽの田んぼの続き冬近し  
冬耕や遠くのビルに陽のひかり  
冬川の波は舟べりたたきけり  
山の背に冬日の影の動きけり  
冬座敷花の上向き下向きも  
鐘つけば寒林ひしと応じけり  
大根をほつたらかしの干しにけり  
三つ星の下で井の水くみにけり  
山の墓地はなればなれや笹子鳴く

去年今年

安藤久美子

小六月雲流るるをながめけり  
クリスマスツリーへ開く自動ドア  
凧と行く電飾の銀座かな  
野仏に枯すすみたる猫じやらし  
悴みし手のゆるむまで話しけり  
いつときかの霰まじりの傘となる  
抱きあげて葉付き大根買ひにけり  
氷面鏡滑りて来る朝日影  
去年今年ともに年取る床柱  
初電話ケーキを買ひて訪ぬると

冬の霧

藤井美晴

冬晴れの清澄橋を渡りけり  
短日のけふ五右衛門の忌日てふ  
腰掛けて冷たきガードレールかな  
寒き日を干し物の影翻る  
たちまちに雨雲増ゆる枇杷の花  
糸杉のしぐれをまとふひかりかな  
玄海の方に陽の没るもがり笛  
舫ひ杭黒く錯たり冬の霧  
潮騒の無き夜入いりふねちよう舟町凍つる  
物の影みな際きわやかに冬の月

龍の玉

國保八江

百羽否千羽の椋の電線に  
畦道に榛の木の影秋深し  
幼子と影踏みごつこ冬すみれ  
城跡の礎石を囲む冬の草  
フェルメール展外は銀杏の黄葉散る  
湧水の溢るるはけの落葉かな  
手にめでてワイングラスへ龍の玉  
湯豆腐や小糠雨降る夜となる  
冬空に行き逢ふ星と飛行船  
夫の打つ鐘を待ちをり除夜詣

白菜の畝

渡邊孝彦

本買うて葉を挟む秋の暮  
野辺の川沿ひに藁塚並び立つ  
枝打ちをされし檜の蔦紅葉  
枝折戸の竹の門紅葉散る  
小流れに架かる木橋や石路の花  
白菜の畝に日差しの有り余る  
冬晴れや護岸工事に仮の橋  
本堂の羽子板供養冬の暮れ  
窓拭きを終へし窓より冬日差し  
単線の電車待つ間の日向ぼこ

くさめ

松村光典

つくねんと行く人ながむ秋日和  
一日を時代祭り<sup>と</sup>火祭りに  
銀杏の匂ひ包んで日の沈む  
香のほのか桜もみぢの葉かな  
とある日のテムズの岸に寄する秋  
いわし雲飛行機雲を呑んでゆく  
満天星に暮れ残りたる秋日和  
さくさくと落ち葉ただたださくさくと  
特大のくさめありけり隣より  
門とに入れば大根煮ゆる気配かな

寒 缶 羽 空 腕 鈍 門  
 暁 詰 根 澄 組 き 柱  
 の の 少 む み 音 の  
 新 大 し や を た 際きわ  
 聞 和 欠 や 解 て ま  
 店 煮 け 遠 き て し で  
 の あ て を 風ふう 始はじ め る 古 刹しやく の 寄 せ  
 明 の け り け り 鹿 稲  
 か の ぬ り 冬 の 立 手 入 威 種  
 り ぬ く の つ 入 威 種  
 か め の つ 入 威 種  
 な 酒 蝶 岬 入 威 種 波

松本善一

角 山 ふ 近 木 村 中  
 ご 里 り 道 の 人 天  
 と の 返 と の 実 の 天  
 に の り て と の 投 の 桐  
 石 風 鳩に 駅 へ 忍 者 遊 び の 停と  
 露 は 浮 き 冬 野 を 小 走 り に ほ  
 の 谷 よ る を 確 か め て に ほ  
 花 咲 り 干 大 根  
 漁 師 町

松本正生

三宅禮子

冬立つ日形見に碁盤もらひけり  
葛紅葉給水塔を登りきり  
秋の蚊の耳の近くに寄りきたる  
実ざくろや晩婚の子の話なぞ  
冬茜耳たぶ少し固くなり  
手造りのロゴハウスあり冬薔薇  
時折りは白紙の画布に降る枯葉

宮下倫一

金木犀ついで銀木の香へ  
古希なれば金木犀の香を惜しむ  
緒方拳の死

眠るかに逝きしと聞けり彼岸花  
萩の花石垣下にこぼれをり

## ◇ 3～4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	18日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
4月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島孟
	15日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	皇居・東御苑	丑久保勲
	24日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	25日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) 4月19日(日)の吟行。集合は10時。丸の内皇居前のパレスホテル(現在解体工事中)の前の大手門入口。吟行地:皇居・東御苑。句会場:森下文化センター(地下鉄大手町駅から徒歩3分、清澄白河駅から徒歩8分)。

◎ 連絡先

瀬島孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ